

指導者 中澤敦子

1. 単元名 「きょう土の発展につくした人 ～棚田嘉十郎～」

2. 単元の目標

・100年以上も前の時代に、棚田嘉十郎が自らの生涯をかけて平城京跡の保存に尽くした業績を知る。

【知識・技能】

・棚田嘉十郎が平城京跡の保存に尽くした事実を知りその想いに触れ、平城宮跡についての現状を調べて世界遺産としての意義や課題について明らかにする。

【思考・判断・表現】

・これからの平城宮跡の保存について、棚田嘉十郎ら先人の想いを次の世代にまでつなぐには、どんなことに心がけることが必要であり、今の自分には何ができるか考え実践する

【主体的に学習に取り組む態度】

3. 単元について

《教材感》

平城京跡の朱雀門の脇にたつ銅像は植木職人の棚田嘉十郎(1860～1921)である。

奈良公園などの植栽を手がけていた嘉十郎は、観光客に平城宮跡の場所を尋ねられても、その場所を知らず、答えることができなかった。これを奈良の人間として恥ずかしいと思った嘉十郎は、平城宮跡の保存と顕彰に一生をかけることを決意したと言われる。

大極殿跡を訪れた嘉十郎は、放牧地となり堆肥が山積みになっている有様を見て嘆き、保存運動へのめり込んでいった。また、1906年には自ら発起人となり溝辺文四郎らと、「平城宮跡保存会」を組織したほか、当時の国鉄奈良駅前に大極殿跡への道標を建立した。また度々上京して陳情を繰り返した。この活動資金のために自宅を売却し暮らしは窮乏を極め、栄養失調のため視力を失いながらも意思を貫いた。ところが、宗教団体に騙され、平城京跡の3分の2を買い上げられてしまい、自らを恥じた嘉十郎は割腹自殺を遂げることとなる。この後、買収地は、ほとんどが国に寄付され、翌年1922年(大正11年)平城宮第二次大極殿と朝堂院跡として史跡名勝天然記念物保存法による史跡に指定された。

嘉十郎の壮絶な生き方を知ること、先人の努力があつてこそ、平城京跡が現在のように守り残されているのだと気づくことができる。社会科の学習で棚田嘉十郎を学習した後、総合的な学習の時間に、その後の平城京跡について調べることで、私たちも地域に誇りを持ち、大切な物を守り続けていこうという心構えと実践力を持つに至る教材となるのではないかと思う

《指導感》

・朱雀門脇にある銅像に目を向け、なぜ建立されているのか、また、明治から大正時代の平城旧跡の写真から、当時をしのぎ、田んぼ一面の土地であったことを知り、生涯をかけて、平城旧跡の保存、顕彰につくした棚田嘉十郎の想いや行動の意味について考えさせたい。

・近年の近鉄車庫建設計画に対する反対運動や、国道建設にあたり、平城宮跡内の東部分を直進し

分断するルートへの変更があった背景に市民のみならず、全国的な反対運動があったことを学ばせたい。

・2000年に京奈和国道の奈良市通過は平城宮跡内をトンネルで通す計画が地下水等のボーリング調査が開始される。2013年現在で宮跡だけで3割の発掘調査が終了しただけで、地下水変動による未発掘や周囲の木簡保存への影響や、換気口の設置による環境破壊を危惧して、奈良市民県民と全国的な反対運動が起きた。

・現在の平城宮跡の整備について「現在の自然や歴史資源を保存する」という考えと「国営平城宮跡歴史公園」として広場を作り観光客を増やすのが目的の事業として整備するという考え方もある。このことに対して平城京跡に関わる人はどんな想いを持っているのか、また自分はどうか考えるのか自分なりの想いを持つことができるようにしたい。

・棚田嘉十郎らの想いを汲み、次の世代につなぐには、果たしてこれからどのような保存の仕方がふさわしいのだろうか考えさせたい。

・グループでインタビューや調べ学習をしたり、考えを出し合ったりすることで、コミュニケーション力、他者との相互理解に至る態度や能力を身につけさせたい。

《ESDの観点》（この単元を通して身につけさせたいESDの視点 見方・考え方・能力）

- ・多様な価値観を尊重する態度
- ・自分とのつながりで考える力
- ・他者と協力してものごとを進める力
- ・自ら実践する力

4. 評価規準

ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に取り組む態度
棚田嘉十郎の生涯についての資料を読み、その一生を理解する。現代における平城旧跡の保存について、資料をもとに確かめる。	調べたことをもとに、お互いの考えをまとめて、表やグラフなども用いて分かりやすく表し、発表する。	グループでのインタビュー、調べ学習などをもとにして、思いを出し合い、積極的にコミュニケーションしている。自分なりの考えを持つなど、積極的に学習に取り組んでいる。

5. 単元展開の概要（全 15 時間）

時	主な学習活動	学習への支援
3	<ul style="list-style-type: none"> ・平城京跡についての知識を共有する ・昔(明治)の平城京跡の写真から、棚田嘉十郎について知る。 ・棚田嘉十郎の生涯について知る。 	<p>遠足や家族と一緒に行ったことのある平城京跡を思い起こさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朱雀門わきに建つ銅像の人物が、どんな人で、なぜそこに建ってるのかを考えさせる。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・棚田嘉十郎の業績や思いを考える。 ・その後の平城京跡について、調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・近鉄車庫 ・国道 ・京奈和道 ・それぞれの計画や、反対運動について調べる。 ・現在、平城京跡に携わっている人々の話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアガイド ・保存会 ・近隣の住民 ・観光客 ・調べたことを基に、グループで平城京跡に対して望むことを話し合い、自分たちができる事を考えまとめる。(模造紙) 	<ul style="list-style-type: none"> ・棚田嘉十郎の業績や人柄について分かりやすくまとめて伝える。(話・読み物) ・嘉十郎の家族、JR 奈良駅の道標などの資料を必要に応じて提示する。 ・保存、整備することを、様々な立場から多角的に考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の種の保護 ・景観 ・遺跡としての価値 ・人々の暮らし ・環境客 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>これから、平城京跡はどのようにしていくのがよいのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちはどういう意見なのかをはっきりさせて伝えるように助言する。効果的な資料やまとめ方やの工夫を考えさせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会を開く グループごとに発表 ・保護者や、ボランティアガイドさんにも聞いてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表するときに、声の大きさ・調子など相手の心に届くような伝え方を工夫させる。

